■日時 平成28年8月16日(火) ■天候 晴のち曇

岡山県立岡山操山高校・通 対 秋田県立秋田明徳館高校

■球場 大田スタジアム 第1試合 3回戦 準々決勝 ■試合時間 2時間34分 ■備考

■審判 球審:吉岡 塁審:山田 森井 安田

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9				計	安	失
秋田明徳館	北東北·秋田	2	0	0	0	0	0	2	2	3				9	7	4
岡山操山∙通	東中国·岡山	2	3	0	1	1	1	0	1	1x				10	13	3

26, ET DE 63	
秋田明德	1 : 1 : 1

			1-6																							
		ポ	ジショ	ョン		E	氏名		打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9					
1	投					阿部	3 和	行	3	2	2	2	死球	三振		右安			四球	中2	死球					
2	П					佐藤	奏	汰	5	0	2	3	三振	三振		三振			左3	四球						
3	捕					安部	ふ 泰	地	1	2	0	0	四球	打妨			四球			打妨	一飛					
4	遊					佐々オ	大	成	5	0	1	2	右安	二飛			三振		三ゴ	遊ゴ						
5	ı					一関	耕	太	3	1	1	0	四球		左安		三振		三振		四球					
6	右					由	拓	가	4	2	1	0	一飛		遊併		二直			四球	遊安					
7	毌					泉	凌	大	4	0	0	1	中飛		三振			ΞÏ		三振						
8	Ш					佐藤	誠	也	5	0	0	0		三失		三振		投ゴ		三振	遊飛					
9	左					髙棉	香	哲	2	2	0	0		四球		投ゴ		三振		四球	四球					
					Ī	É	合計	·	32	9	7	8	残	塁:12	併	殺:2	•	•	,	,	•	•	,	,	,	
											備	考														

■バッテリー

	投	手		
阿	部	和	行	

捕手												
安	部	泰	地									
	安	•										

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
阿 部 和 行	9	40	13	2	3	7

岡山操山•通

		ポ	ジショ	ョン		氏名	1	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	Ξ	投	=		吉	澤	響	4	3	2	1	左本	一邪		二飛		四球		右2					
2	=		投		遠	藤礼	右 毅	4	1	3	1	— ゴ	四球		遊安		三安		中安					
3	投	Ξ			難	波音	直斗	5	2	4	1	左安	右安		左安		一飛			左安				
4	_				東	山原	東平	5	0	1	2		遊飛		投ゴ		遊直			右安				
5	中				延	原	翔	4	0	1	1		遊失		投ゴ			遊ゴ						
6	遊				森	ナ	輔	4	1	1	0	三振	遊ゴ			中3		遊ゴ						
7	右				畄	﨑勇	매 	4	1	1	0		右3	三失		投邪		二飛						
8	捕				됄	本体	占斗	3	1	0	1		中犠	ΪΞ		遊ゴ			ΪΞ					
9	左				攺	立事	成 也	3	1	0	0		死球	二併		中飛			右飛					
							·																	
					Ť	,										Ť					Ť			
						合計	-	36	10	13	7	残	塁:6	併希	殳:1									
										備	老													

■バッテリー

	投手													
難	波	龍	斗											
吉	澤		響											
遠	藤	祐	毅											

	捕	手		
岡	本	佑	斗	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
難 波 龍 斗	4	20	3	6	4	2
吉 澤 響	4	20	2	6	6	3
遠 藤 祐 毅	1	8	2	0	3	3

■戦評

大田スタジアムで行われた準々決勝第1試合は、共に2回戦をコールドで勝ち上がった岡山県立岡山操山高校・通信制と秋田県立秋田明徳館高校の対戦となった。初回に両チーム2点ずつを取り合い同点で迎えた2回裏、岡山操山は7番岡崎の三塁打を足がかりに3点を奪うと4回・5回・6回に1点ずつ加え試合を優位に進める。追いかける秋田明徳館は7回に2点を返すと8回1番阿部が2点適時二塁打を放ち6-8と徐々に点差を縮める。8回裏に1点を失い3点差で迎えた9回、犠飛により1点を返すと二死ながら満塁の好機に2番佐藤(奏)が左翼前へ適時安打を放ち土壇場で試合を振り出しに戻す。追いつかれた岡山操山は後続を断ちこのピンチを同点で切り抜けると、その裏先頭の難波が安打と盗塁で好機を作る。ここで4番東山が右翼へ安打を放ち、難波が生還しサヨナラ。両チーム合わせて20安打19得点の乱打戦を10-9で制した岡山操山が準決勝に進出した。一方敗れた秋田明徳館は17盗塁と足を使った攻撃を軸に最後まで粘りを見せただけに、8回9回の一打逆転の好機を生かせなかったことが何とも悔やまれる結果となった。